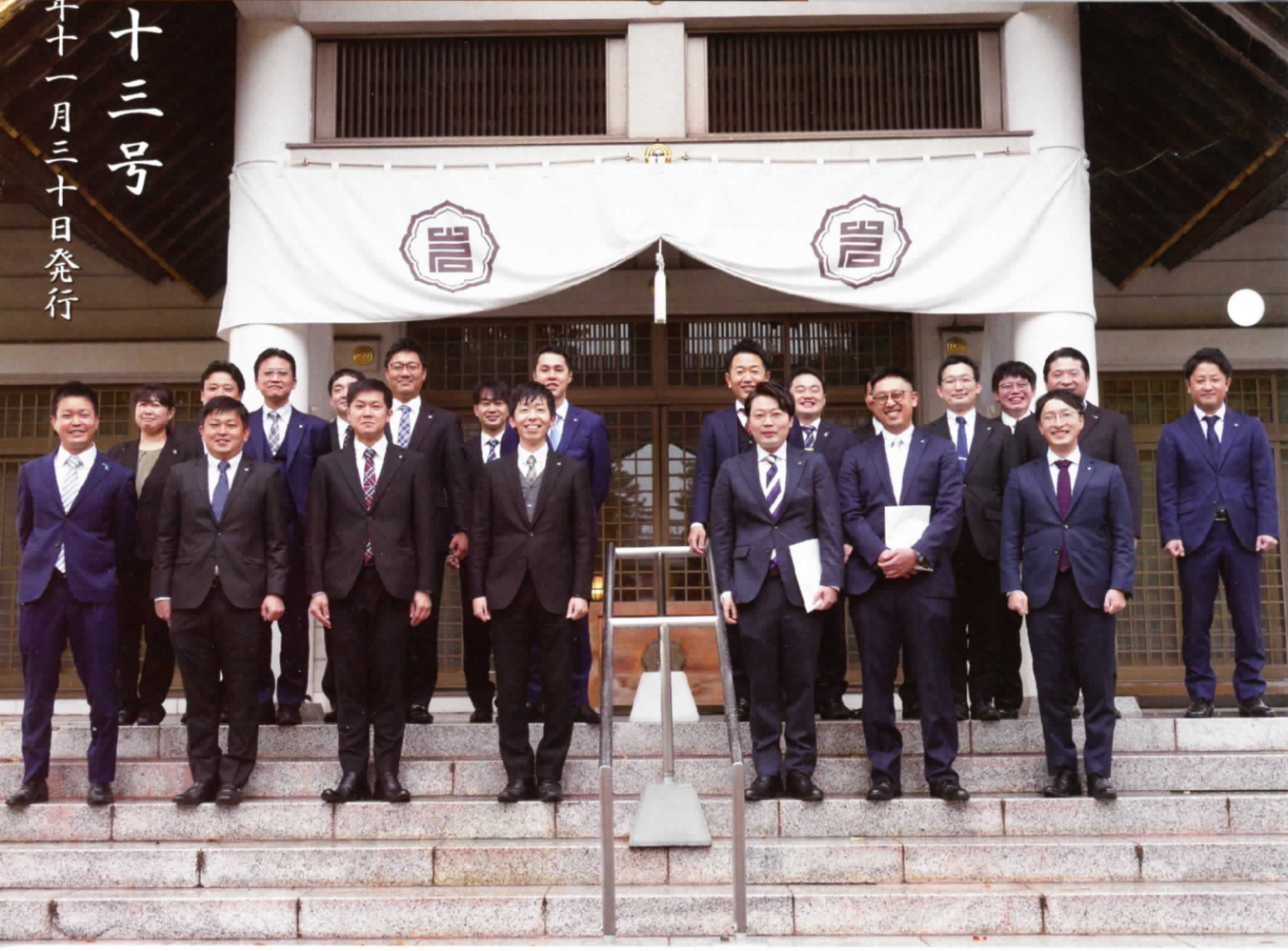


道 神 青



第八十三号
令和四年十一月三十日発行



令和四年度 北海道神道青年協議会 定例総会



の挨拶、御来賓の北海道神社庁長芦原高穂様より御挨拶を頂き議事へと進みました。審議に先立ち議長選出を行い、大西会員が選出され、議事が進められました。

議事では先ず、令和三年度の会務報告・一般会計歳入算出決算をはじめ各種収支計算書・監査報告が行われ、その後全体に諮り承認を受けました。次の役員改選では檜山地区の松崎胤彦理事に代わり伊藤大輝理事が選出されました。

続いて、令和四年度の活動方針・事業計画案を発表し、これに則した予算案等について審議を行い満場一致にて承認を受けました。

引き続き総会講演会として、「ソ連占領下の樺太で何が起きたのか」という題目の下、講師として樺太豊原会会長出口吉孝先生をお招きし御講演頂きました。

本講演会では、出口先生に樺太に住んでいた時のお話や、樺太がロシア領土になってしまった時のお話、道神青協で樺太神社に参拝した時のお話など様々な樺太での経験についてお話を頂きました。出口先生の講演は会員にとつとても有意義な内容であり、樺太をはじめ、北方領土や尖閣諸島などの領土問題について改めて深く考えることができた貴重な機会となりました。

去る令和四年四月五日、北海道神社庁二階研修室に於いて令和四年度北海道神道青年協議会定例総会が執り行われました。全道より会員四十六名参加の下、令和三年度の会務・決算報告、役員改選、四年度の事業計画・予算などについて審議されました。

本総会は新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、出席者全員が対面するというわけではなくWEB会議サービスZOOMも利用した形のハイブリット式で行われました。

定例総会開式の辞に続いて、神殿拝礼、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和と続き北方会長

新琴似神社 権禰宜 田湯紳司



令和3年度決算書・令和4年度予算書

令和3年度 一般会計歳入歳出決算書

1. 歳入金額 3,144,421円也
 1. 歳出金額 2,419,708円也
 1. 差引残 724,713円也

自 令和3年4月1日
 至 令和4年3月31日

【収入の部】 (単位:円)

科目	決算額	予算額	増減	備考
1.会費	705,000	725,000	-20,000	5千×141名
2.協賛金	1,219,000	1,200,000	19,000	本年度協賛金
3.助成金	230,000	230,000	0	神社庁20万・神青協3万
4.雑収入	273,741	18,320	255,421	利息・祝儀他
5.繰越金	716,680	716,680	0	前年度より
6.繰入金	0	0	0	
合計	3,144,421	2,890,000	254,421	

【支出の部】 (単位:円)

科目	決算額	予算額	増減	備考
1.神事費	40,000	40,000	0	玉串料(北海道神宮・道庁国神社・北門神社・樽前山神社)
2.負担金	284,500	300,500	-16,000	会員贈出金 21万1千5百(1.5千×141名)・地区贈出金5万・年賀互礼広告3千・日本会議北海道本部2万
3.事務通信費	332,833	300,000	32,833	事務郵便料・事務所費
4.会議費	220,260	300,000	-79,740	
①会議諸費	70,260	150,000	-79,740	年間ZOOM使用料他
②役員旅費	150,000	150,000	0	役員交通費補助 打切支出
5.活動費	1,174,880	1,650,000	-475,120	
①事業費	693,095	850,000	-156,905	定例総会・研修会30万・新春研修会ほか
②広報費	241,785	300,000	-58,215	通信作成費・送料 ホームページ維持費
③神青協関係費	240,000	500,000	-260,000	神青協出向補助
6.慶弔費	87,235	50,000	37,235	祝儀・弔電・葬儀玉串料
7.会長交際費	70,000	70,000	0	会長交際費補助 打切支出
8.雑費	0	49,500	-49,500	
9.積立金	210,000	70,000	140,000	本年度積立金
10.予備費	0	60,000	-60,000	
合計	2,419,708	2,890,000	-470,292	

3,144,421円-2,419,708円=724,713円
 差引残額 724,713円を次年度一般会計繰越金とする。

令和4年度 歳入歳出予算書(案)

1、一般会計

【収入の部】 (単位:円)

科目	予算額	前年予算額	増減	備考
1.会費	705,000	725,000	-20,000	5千×141名
2.協賛金	1,200,000	1,200,000	0	本年度協賛金
3.助成金	230,000	230,000	0	神社庁20万・神青協3万
4.雑収入	14,287	18,320	-4,033	利息・祝儀他
5.繰越金	724,713	716,680	8,033	前年度より
6.繰入金	0	0	0	
合計	2,874,000	2,890,000	-16,000	

【支出の部】 (単位:円)

科目	予算額	前年予算額	増減	備考
1.神事費	30,000	40,000	-10,000	玉串料(道庁国・空知支部内神社・石狩管内神社)
2.負担金	294,500	300,500	-6,000	会員贈出金 21万1千5百(1.5千×141名)・地区贈出金5万・年賀互礼広告3千・日本会議北海道本部3万
3.事務通信費	300,000	300,000	0	事務郵便料・事務所費
4.会議費	300,000	300,000	0	
①会議諸費	150,000	150,000	0	年間ZOOM使用料他
②役員旅費	150,000	150,000	0	役員交通費補助 打切支出
5.活動費	1,650,000	1,650,000	0	
①事業費	850,000	850,000	0	定例総会・研修会30万・スポーツ大会・新春研修会ほか
②広報費	300,000	300,000	0	通信作成費・通信送料・ホームページ維持費
③神青協関係費	500,000	500,000	0	神青協出向補助50万 打切支出
6.慶弔費	50,000	50,000	0	祝儀・弔電・葬儀玉串料
7.会長交際費	70,000	70,000	0	会長交際費補助 打切支出
8.雑費	49,500	49,500	0	
9.積立金	70,000	70,000	0	本年度積立金
10.予備費	60,000	60,000	0	
合計	2,874,000	2,890,000	-16,000	

2、積立金

科目	期首残高	取崩予算額	期末予想残高	備考
積立金	6,277,664	0	6,277,664	
合計	6,277,664	0	6,277,664	

神道青年全国協議会 第七十三回定例総会・定例表彰



名出席のもと進められました。

開会式で小林会長よりコロナ禍での活動に

協力頂いた全国会員

への感謝が述べられ

総会が始まり、続く

定例表彰式では、道

神青協で製作した

『正月用社頭アナウ

ンス神社専用フリー

音源』が時宜に適切

た事業であることや

成果物が広く活用さ

れる取り組みが認め

られ優秀事業賞を受

賞しました。

去る令和四年四月

二十六日、神社本庁

大講堂に於いて神道

青年全国協議会第

七十三回定例総会が

開催されました。本

総会はコロナ禍の状

況によりハイブリッ

ド式での開催となり

全国より代議員百三

続いて議事に入り令和三年度の会務、決算等の報告、令和四年度の事業計画、予算等全ての議事が原案通り承認されました。

結びに令和四年度定例総会決議が行われ、

神宮大麻全国頒布百五十周年、沖繩本土復帰

五十周年の節目を迎える今、伝統を守りながら

新たな取り組みに目を向け神社神道の興隆に

寄与すべく決意を新たにす起草案が決議され

定例総会は閉会致しました。

尻岸内八幡神社 禰宜 荒木直弥

令和四年五月二十日 神道青年全国協議会 ウェブ研修会

ウェブ研修会

去る令和四年五月二十日に神道全国協議会

主催の下、「デジタル社会における神社の在り

方」を学ぶウェブ研修会が開催されました。

講師に國學院大學研究開発推進センター共同

研究員の河村忠伸先生より、「デジタルシフト

社会における神社」と題して御講義を賜りま

した。

新型コロナウイルスによりオンラインでの

会議やテレワークが増え、デジタルシフトが進

み、神社界ではオンライン参拝・賽銭のキャッ

シュレス化・ネットでの神符授与など関心が

高まっていますが、それらが神祇信仰から逸

脱したものであれば容認できません。この問題に関して求められているのが、メリットや需要より先に、それらを信仰上認められるか否かであり、参拝者から質問があった場合、なぜ認められるのか、なぜ認められないのかを説明・回答するためには神祇信仰の本義を改めて考える必要性があります。今回の研修会はそのらについて認められるか、認められないかを、神道史の観点から教学的な論点を整理しながら御講義を賜りました。

此度の研修会は三部で構成されており、第一部では河村先生よりオンライン参拝・賽銭のキャッシュレス化・インターネットを通じて神符授与などについて御講義を頂き、第二部ではブレイクアウトルームを使用し、受講生がウェブ上にて班に分かれグループディスカッションを行い、第三部では各班の代表者が、班での意見や質問を発表し、それに対し河村先生より回答を頂くという形式で研修会が行われました。

今後一層デジタル化が進む中で、メリット

脱したものであれば容認できません。この問題に関して求められているのが、メリットや需要より先に、それらを信仰上認められるか否かであり、参拝者から質問があった場合、なぜ認められるのか、なぜ認められないのかを説明・回答するためには神祇信仰の本義を改めて考える必要性があります。今回の研修会はそのらについて認められるか、認められないかを、神道史の観点から教学的な論点を整理しながら御講義を賜りました。

此度の研修会は三部で構成されており、第一部では河村先生よりオンライン参拝・賽銭のキャッシュレス化・インターネットを通じて神符授与などについて御講義を頂き、第二部ではブレイクアウトルームを使用し、受講生がウェブ上にて班に分かれグループディスカッションを行い、第三部では各班の代表者が、班での意見や質問を発表し、それに対し河村先生より回答を頂くという形式で研修会が行われました。

今後一層デジタル化が進む中で、メリット

脱したものであれば容認できません。この問題に関して求められているのが、メリットや需要より先に、それらを信仰上認められるか否かであり、参拝者から質問があった場合、なぜ認められるのか、なぜ認められないのかを説明・回答するためには神祇信仰の本義を改めて考える必要性があります。今回の研修会はそのらについて認められるか、認められないかを、神道史の観点から教学的な論点を整理しながら御講義を賜りました。

此度の研修会は三部で構成されており、第一部では河村先生よりオンライン参拝・賽銭のキャッシュレス化・インターネットを通じて神符授与などについて御講義を頂き、第二部ではブレイクアウトルームを使用し、受講生がウェブ上にて班に分かれグループディスカッションを行い、第三部では各班の代表者が、班での意見や質問を発表し、それに対し河村先生より回答を頂くという形式で研修会が行われました。

今後一層デジタル化が進む中で、メリット

脱したものであれば容認できません。この問題に関して求められているのが、メリットや需要より先に、それらを信仰上認められるか否かであり、参拝者から質問があった場合、なぜ認められるのか、なぜ認められないのかを説明・回答するためには神祇信仰の本義を改めて考える必要性があります。今回の研修会はそのらについて認められるか、認められないかを、神道史の観点から教学的な論点を整理しながら御講義を賜りました。

此度の研修会は三部で構成されており、第一部では河村先生よりオンライン参拝・賽銭のキャッシュレス化・インターネットを通じて神符授与などについて御講義を頂き、第二部ではブレイクアウトルームを使用し、受講生がウェブ上にて班に分かれグループディスカッションを行い、第三部では各班の代表者が、班での意見や質問を発表し、それに対し河村先生より回答を頂くという形式で研修会が行われました。

今後一層デジタル化が進む中で、メリット

脱したものであれば容認できません。この問題に関して求められているのが、メリットや需要より先に、それらを信仰上認められるか否かであり、参拝者から質問があった場合、なぜ認められるのか、なぜ認められないのかを説明・回答するためには神祇信仰の本義を改めて考える必要性があります。今回の研修会はそのらについて認められるか、認められないかを、神道史の観点から教学的な論点を整理しながら御講義を賜りました。

此度の研修会は三部で構成されており、第一部では河村先生よりオンライン参拝・賽銭のキャッシュレス化・インターネットを通じて神符授与などについて御講義を頂き、第二部ではブレイクアウトルームを使用し、受講生がウェブ上にて班に分かれグループディスカッションを行い、第三部では各班の代表者が、班での意見や質問を発表し、それに対し河村先生より回答を頂くという形式で研修会が行われました。

今後一層デジタル化が進む中で、メリット

脱したものであれば容認できません。この問題に関して求められているのが、メリットや需要より先に、それらを信仰上認められるか否かであり、参拝者から質問があった場合、なぜ認められるのか、なぜ認められないのかを説明・回答するためには神祇信仰の本義を改めて考える必要性があります。今回の研修会はそのらについて認められるか、認められないかを、神道史の観点から教学的な論点を整理しながら御講義を賜りました。

此度の研修会は三部で構成されており、第一部では河村先生よりオンライン参拝・賽銭のキャッシュレス化・インターネットを通じて神符授与などについて御講義を頂き、第二部ではブレイクアウトルームを使用し、受講生がウェブ上にて班に分かれグループディスカッションを行い、第三部では各班の代表者が、班での意見や質問を発表し、それに対し河村先生より回答を頂くという形式で研修会が行われました。

今後一層デジタル化が進む中で、メリット

脱したものであれば容認できません。この問題に関して求められているのが、メリットや需要より先に、それらを信仰上認められるか否かであり、参拝者から質問があった場合、なぜ認められるのか、なぜ認められないのかを説明・回答するためには神祇信仰の本義を改めて考える必要性があります。今回の研修会はそのらについて認められるか、認められないかを、神道史の観点から教学的な論点を整理しながら御講義を賜りました。

此度の研修会は三部で構成されており、第一部では河村先生よりオンライン参拝・賽銭のキャッシュレス化・インターネットを通じて神符授与などについて御講義を頂き、第二部ではブレイクアウトルームを使用し、受講生がウェブ上にて班に分かれグループディスカッションを行い、第三部では各班の代表者が、班での意見や質問を発表し、それに対し河村先生より回答を頂くという形式で研修会が行われました。

今後一層デジタル化が進む中で、メリット

脱したものであれば容認できません。この問題に関して求められているのが、メリットや需要より先に、それらを信仰上認められるか否かであり、参拝者から質問があった場合、なぜ認められるのか、なぜ認められないのかを説明・回答するためには神祇信仰の本義を改めて考える必要性があります。今回の研修会はそのらについて認められるか、認められないかを、神道史の観点から教学的な論点を整理しながら御講義を賜りました。

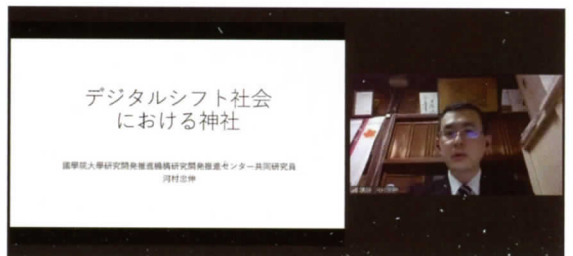
此度の研修会は三部で構成されており、第一部では河村先生よりオンライン参拝・賽銭のキャッシュレス化・インターネットを通じて神符授与などについて御講義を頂き、第二部ではブレイクアウトルームを使用し、受講生がウェブ上にて班に分かれグループディスカッションを行い、第三部では各班の代表者が、班での意見や質問を発表し、それに対し河村先生より回答を頂くという形式で研修会が行われました。

今後一層デジタル化が進む中で、メリット

脱したものであれば容認できません。この問題に関して求められているのが、メリットや需要より先に、それらを信仰上認められるか否かであり、参拝者から質問があった場合、なぜ認められるのか、なぜ認められないのかを説明・回答するためには神祇信仰の本義を改めて考える必要性があります。今回の研修会はそのらについて認められるか、認められないかを、神道史の観点から教学的な論点を整理しながら御講義を賜りました。

此度の研修会は三部で構成されており、第一部では河村先生よりオンライン参拝・賽銭のキャッシュレス化・インターネットを通じて神符授与などについて御講義を頂き、第二部ではブレイクアウトルームを使用し、受講生がウェブ上にて班に分かれグループディスカッションを行い、第三部では各班の代表者が、班での意見や質問を発表し、それに対し河村先生より回答を頂くという形式で研修会が行われました。

今後一層デジタル化が進む中で、メリット



や需要・利便性だけに流されず、神祇信仰の本義を中心に置いた上で、デジタルの分野を取り入れ、現代社会に関わる神社の在り方を模索し、実践していきたいと思えます。

上川神社 権禰宜 松本直哉

令和四年七月四日・六日 神道青年全国協議会 ウェブ研修会

去る七月四日、六日の二日間に渡り、会員百三十四名参加の下、神道青年全国協議会「神道講話を学ぶウェブ研修会」が開催されました。今回は元NHKアナウンサー、現在は千



葉県長南町の熊野

神社など六十三社

の宮司であります

宮田修先生を講師

としてお招きし、

第一講「話して

伝える」を考える
「理論編」、第二講
「いかにして伝える
か」実践編」を
テーマに御講義を
頂きました。
第一講では、理論

編として世界の人が魅了される日本人のよさが失われつつある昨今、それを取り戻すために神職の力が必要であり、神職もアナウンサー同様、「話して伝える」講話の研究をすべきであると御指導頂きました。先生は講話の技術はすぐには上達しないと前置きした上で、相手に伝わる講話の条件は、「最後まで講話を聞いてもらう」こととして、「小学五年生でもわかる平易な言葉で」「伝えたいことを絞って」「はっきりと少し大きな声で話す」ことが大切であると御指導頂きました。また、日頃から社頭にて参拝者に積極的に話しかけ、参拝者がどんな方でもどんな気持ちで参拝しているのか想像できるように人間観察力を磨くことや講話のネタとして話の引き出しをたくさん準備することの大切さも教えて頂きました。

第二講では、実践編として先生が歳旦祭の講話を披露してくださいました。先生は、参列者の中に玉串料の意味を知らない方がいた為、「歳」「旦」「祭」の一字一字をどんな字でどんな意味なのかを説明することに多くの時間を割いた事例を御披露頂きました。また、祈年祭に笏を忘れ取りに帰るといふ失敗をした際の講話で笏についての説明をした事例もあげ、その場の雰囲気を観察し、適切な話題を話の引き出しから瞬時に引き出せる臨機応変さも大切であると御指導頂きました。今回の研修会で御指導頂いた日常からの準備を忘れずに、聞き手の

気持ちに寄り添った神道講話を目指すべく自己研鑽に励んで参ります。

千歳神社 権禰宜 山口泰明

令和四年度 神道青年全国協議会 夏期セミナー

去る八月三十日から三十一日の二日間に亘り、令和四年度神道青年全国協議会夏期セミナーが神社本庁にて開催されました。「意識改革」多様化する社会に適應するために」と題し、五名の講師による御講演を賜りました。

第一講では、モデレーターに皇學館大学文学部神道学科助教高野裕基先生、パネリストに太宰府天満宮権禰宜高山博子先生・荘内神社権禰宜石原和香子先生をお迎えし、「女性らしさと現代の神社」と題して御講演頂きました。実際に女子神職として御奉仕されている御経験を基に議論が進められ、男女の区別では無くそれぞれの特質を活かした奉仕を行っていくことが大切であると述べられました。

第二講では、元スターバックスコーヒージャパンCEOの岩田松雄先生により「ミッション」私たちの存在理由」と題し、御講演頂きました。ミッション(＝使命)達成の為に明確なビジョンを持つこと、また情報溢れる現

代社会において視点を鍛えていくことがいかに重要であるか御教授頂きました。

第三講では、本社本庁総合研究所総合研究部長浅山雅司先生より「デジタル化に伴う神社での対応を考へる」と題し、御講演頂きました。持続可能な社会の実現に向けた動きが進む中、神社界においても時代に対応した変化が求められると述べられました。SDGs以外にもキャッシュレス決済や電子マネーに対応する際の注意点などを具体的にお示し頂き、一層理解を深めることが出来ました。

多様化する社会の中で伝統を守り続けるだけではなく、どのように変化し対応していかなければならないのか改めて考える好機となりました。今回のセミナーにおいて学んだことを生かし、日々の神明奉仕に努めていきたいと思えます。

新琴似神社 権禰宜 田湯桃花



神道青年全国協議会 神職のための神宮研修会

去る令和四年九月二日、令和四年度神職のための神宮研修会がZOOMを用いたオンライン形式で開催されました。主題を「斯界を担う青年神職のために」地域における神宮奉賛の要として」とし、第一講に神宮権禰宜・頒布課長兼奉製課長小針孝裕先生、第二講に神宮権禰宜・広報課長補佐中西直樹先生より、神宮大麻や神宮、式年遷宮などについて御講演を賜りました。

私は神道青年全国協議会が主催する研修に参加したのは今回が初めてでしたが、内容に関して特に印象深かったのは、神宮大麻の頒布の歴史に明治天皇陛下のお力がかかり関わっていたことです。私自身、学生時代は明治神宮にて研修生として御奉仕させて頂いておりましたので、御縁を感じざるを得ませんでした。また、神宮におけ



るほとんどの祭典は二十年に一度の式年遷宮へと繋がっているという観点も納得出来ました。式年遷宮を「大」神嘗祭として捉えようと、一年を通してそのために行っている祭典が多いということです。お二方のお話はとても興味深いものであり、神宮大麻を頒布する神主として必要な御講演であったことに間違いありません。神宮の神職としての考え方や捉え方を拝察することが出来たのが今回の研修会で最も有意義な点であったと思います。

篠路神社 権禰宜 森宣暁

北海道神道青年協議会研修会 並びに臨時総会

去る令和四年十月十八日・十九日の二日間、岩見沢市にて北海道神道青年協議会研修会が会員六十名参加の下開催されました。

コロナ禍による社会的関係性の希薄化が祭祀や氏子意識の継承に影響を及ぼす可能性を神社関係者の多くが危惧する昨今、時代に即した教化活動を実践するべく神社護持に関する教養を育まんとする「不易流行く変わらなれたために変わる」を主題に掲げ、研修は行われました。

第一講では北海道立総合研究機構林業試験場の森林環境部長、脇田陽一先生による「鎮

守の森を守る・活用する」林業試験場の成果から」を演題に講演を賜りました。「樹木を更新していく」という考えを学び、樹木が齎す利点や苦情に繋がりを欠点、伐採・剪定の重要性や樹木診断の方法など社務に直結する内容を勉強させて頂きました。神社は地域の方にとって憩いや拠り所であると共に、郷土でもあります。境内の自然から地域の気候風土を感じて貰う為に、神職が正しい管理・保全を学ぶ事は不可欠と考えるようになりました。



第二講では國學院大學北海道短期大学部准教授の森悟朗先生による「北海道の個別神社史と小祠・石碑等の調査研究について」これまでの刊行物の現状調査から」を演題に講演を賜りました。北海道の神社は創建から現在迄の間隔が近い為に文献が多く、創建から時代の変遷も見えてくるものです。講演では時代毎に北海道全体の創建を記した頒布図が配られ、各時代の歴史背景や神社の特徴を明瞭かつ簡潔に御教授戴き、今後文

献を読み見解を深めねばと自己啓発にも繋がる時間となりました。



第三講では「レバンガ北海道」の選手として活躍され、現在は株式会社レバンガ北海道代表取締役社長の折茂武彦先生による「北海道のために」選手として、経営者として」を演題に講演を賜りました。選手時代の経験を基にプロ選手の役割や価値、選手生命の短さと現役を続ける為心掛けた事柄についてお話戴き、成果を出す迄には強い覚悟と膨大な過程が必要だと学びました。自身を律する事の大切さ、周りが何を求めており応えられて



いるか、情熱を持ち続ける重要性など、「自身のマネジメント」を教わり自問する機会が得られました。

此度の研修会で仲間と共にした時間は熱く、結束もより一層固まり同じ方向を向く事が出来たように感じます。先生方から戴いた知識を糧とし、神道の将来を担う一助となるべく今後とも更なる精進を重ねていく次第です。

また本研修中に臨時総会が行われました。議長には後志青年神職会の玉置彰彦会員が選出され、「次期会長並びに監事選出の件」、「令和五年度神青協中央研修会実行委員会の件」、「令和五年度神青協中央研修会会計予算案に関する件」が上程、各議案は原案通り異議なく承認されました。これにより、次期会長に渡島神道青年会 荒木直弥会員、次期監事に札幌支部青年神職文月会 後藤尚範会員・同西山智史会員が満場一致で承認されました。



北海道神道青年協議会

第二回インスタグラム



神社フォトコンテスト

「北海道の神社百景」

去る令和四年八月一日〜九月三十日の二カ月間、第二回インスタグラム神社フォトコンテスト「北海道の神社百景」を開催しました。

当会では過去に、日本書紀撰上千三百年記念事業として、神社に関係する写真(神社鎮座地に縛り無し)を募集した神社フォトコンテスト「神写」、また昨年は北海道内の神社に絞って、道内の神社に関係する写真を募集したインスタグラム神社フォトコンテスト「北海道の神社百景」を開催し、多数の応募を賜りました。

本年は「北海道の神社百景」の第二弾で、同じく「北海道の神社」に関わる写真」を募集し、写真を通じて氏子崇敬者と神社に関わる機会を創出すると共に、道内神社とお祭りの周知、神社への関心向上、参拝の促進を目的として開催しました。前回からの主な変更点は二点あり、一点目は季節の移ろいにより様々な変化をみせる道内神社の素敵な写真を募集し、四季折々の神社の魅力を伝えるべく、春夏秋冬の各賞を設けました。二点目は、コンテスト後の参拝促進を目的として、入賞者全員に当会事業品であるオリジナル御朱印帳と御朱印帳袋を授与することと相成りました。

開催期間中、初宮参りや七五三、結婚式など御家族の微笑ましい思い出の写真や四季折々の風景写真、境内の厳かな雰囲気を感じられる写真など今回も素晴らしい投稿が続く、更には数年ぶりに神幸祭が執り行われた神社もあり、神輿渡御を始めお祭りの賑わいが伝わる写真も数多く応募頂きました。一方で、人口減少や高齢化により神社の維持が難しく、当該神社の最後となる秋祭りの様子をとらえた写真が投稿され、撮影後に鳥居が撤去されたこととも知りました。投稿者のコメントに「地域の住人が少なくなった中でも守られ続けていましたが、氏子の皆様が御高齢であることなどから先日のお祭りをもって神社終いとなったことを地域の方に教えてもらいました。(中略)：幟はもう立たないのだなあと思うと寂しくなります」とあり、斯界を取り巻く厳しい現実が付いている投稿は一万四千件を超え、このような道内神社の様子

を見る事が出来ます。神職の皆様にも是非とも投稿された数々の写真を御覧戴きたいと存じます。

本フォトコンテストは期間中三千七百件を超える応募を頂き、多種多様で道内神社に関わる写真は多くのユーザーの目に触れ、写真を通じて神社をより身近に感じて戴けたかと存じます。「神社を参拝するきっかけとなりました」や「地元神社へ行ってみようと思います」など、嬉しいコメントも多く寄せられ、本質的な教化活動も重要ですが、このように向後の参拝の「きっかけ」を創出する事業も必要になることを改めて実感した次第です。

結びに本事業遂行に際し、各支部や各神社の皆様には御理解と御協力賜り、恙なく終えられましたこと心から御礼申し上げます。

美幌神社 禰宜 井上真輔



◎作者: showg_bass6

撮影場所: 風戸大神(恵比須神社)/寿都町

空に映る雲が神々しくもあり、見入ってしまう一枚です。小さな神社、大きな神社たくさんありますが、大きさ関係なくそこには神様が祀られているのです。



◎作者: hige_shippo

撮影場所: 琴平神社/古平町

立ち昇る火の粉の力強さが印象的です。その力強さが神奥の御神威を感じさせます。



◎作者: zuoteng6681

撮影場所: 厚真神社/厚真町

晴れ着姿に身を包んだ姿と、手水に浮かぶ色鮮やかな花々がマッチして、とても可愛らしいです。更にお子様の愛くるしい笑顔に心とむ一枚です。



◎作者: elycamera

撮影場所: 滝野神社/札幌市

静けさに包まれた森の中にたたずむ神社。その荘厳な姿に心が洗われます。鎮守の森が竹む清らかな景色をとらえた素敵なお写真です。



道神青協インスタグラム
神社フォトコンテスト



北海道の
神社百景
春

◎作品者:tett_k2
撮影場所:
明和神社/古早町

鳥居を覆い尽くすほどの満開の桜は境内に春心地良い空気を運んでくれるかのようです。参拝に訪れる方々の心も自然と澄んでいくようなとても美しい一枚です。



北海道の
神社百景
夏

◎作品者:hamuyynn
撮影場所:
厚別神社/札幌市

境内を彩る風鈴越しに見える可愛らしい兄妹。素敵な浴衣を身にまとい、夏を感じる素敵な一枚です。



北海道の
神社百景
秋

◎作品者:yukar1986
撮影場所:住吉神社/小樽市
手水舎の水面に紅葉と秋晴れがきれいに写し出されています。心身共に清らかになれる一枚です。



北海道の
神社百景
冬

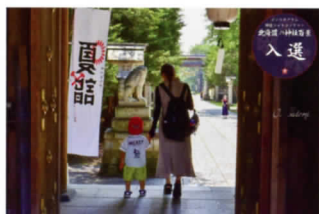
◎作品者:sapporo.kid
撮影場所:北海道神宮/札幌市
しんと雪が降りながら、大勢の参拝者で賑わう様子を写された一枚。北海道の神社だからこぼれられる、とても素敵な写真です。



◎作品者:shu_camera
撮影場所:樺前山神社/苫小牧市
荘厳な御社殿と立派な御神輿が目玉の一枚です。各地の神社の祭りでは、神輿がお祭りにならされている御神輿も氏子の方々の手により地域を巡行し、各家へ御神徳を分けてくださいます。



◎作品者:hzhazzo
撮影場所:川上神社/標茶町
祖父とともに参拝をする小さな子供。「おじいちゃんここはどこなの？」そんな会話が出来てきそうです。人物だけではなく、素敵な境内をもとらえた素晴らしい一枚です。



◎作品者:satomini_313
撮影場所:帯廣神社/帯広市
お母さんと手を繋いでご参拝でしょうか。親子仲良く、心温まる素敵な写真です。御家族の繁栄を祈念します。



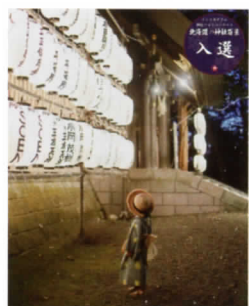
◎作品者:sato3739
撮影場所:北門神社/雁内市
マスクを付けたながらも力強く階段を駆け上る担ぎ手と御神輿。周囲を覆う綺麗な緑の色彩も美しくより一層中心の御神輿が引き立つお写真です。担ぎ手達の一休感が感じられコロナ禍でのお祭りの姿を写した一枚でもあります。



◎作品者:quadrat08
撮影場所:大雪山厨堂峯神社/上川町
朝が明の中、鳥居と織とその先に点々と灯く。その周りを囲む大きな木々の上に登立つ岩壁が北海道の大自然を感じさせ、思わず階段の先に足を踏み入れたくなるような素敵な一枚です。



◎作品者:jam_neko_8
撮影場所:上白滝神社/遠軽町
鳥居のすぐそば、参道を電車通る音の光景です。現在は神社の解放の鳥居が撤去されているので、写真で見られない貴重な一枚です。



◎作品者:so_happy03
撮影場所:千歳神社/千歳市
灯された提灯がすずりと並ぶその姿はお祭りの風情を感じます。不思議そうに見守る子供の姿はとて可愛いらしいですね。

道神青協
Instagram
アカウント運営中!!
皆様フォローを
お願い申し上げます。



◎作品者:take_tombo
撮影場所:鳥取神社/釧路市
子供相撲の楽しいひと時を写されたお写真から、境内の活気が伝わります。子供たちには相撲を通じて挨拶や礼儀、思いやりの心を持って成長してくれるといいですね。



◎作品者:fujiskypphoto
撮影場所:函館八幡宮/函館市
多くの奉仕者が御祭神の御霊ののるお神輿を担ぐ強靱な腕が伺える一枚です。マスクをしている方がみられることからコロナ禍で漸く出来たお祭りだと感じさせます。



◎作品者:yuhi_kurokawa
撮影場所:北海道護国神社/旭川市
樹齢400年にもなる大きなニレの樹。どっしりと横たえるこの大樹は、長い年月多くの参拝者を見守ったことでしょう。神社らしい威厳と風情を感じられる素敵な一枚です。



神道青年全国協議会 沖縄本土復帰五十周年記念事業 沖縄戦全戦歿者慰霊祭

去る令和四年十月二十七日、沖縄県護国神社に於いて沖縄戦全戦歿者慰霊祭が斎行されました。本年は沖縄県が本土復帰五十周年の節目の年を迎え、現在の平和で豊かな日本を築くために礎となられた英霊に対し、心から慰霊の誠を捧げるべく全国より百名を超える会員、OBが出席し北海道からは北方会長、芦原参与、田湯会員が参列、私が祭員として奉仕させて頂きました。

当日夏を思わせるような日照りの下、午後三時より祭典が斎行され沖縄県護国神社加治宮司様を齋主に神青協代表として小林会長、湯浅副会長、大鳥居副会長、各都道府県より四十七名の会員が祭員として奉仕し厳かに祭典は執り行われました。暑さと緊張感が和らぐような心地良い風が時折殿内に靡く中滞りなく進められ参列者一同命を懸けて国を守った英霊に慰霊の誠を捧げました。

結びの挨拶にて神青協小林会長より本事業は沖縄県本土復帰五十周年記念日である五月十五日に行う予定でしたが、昨今の情勢により延期となり会員奉務神社にて国土平安祈願祭を全国一斉奉仕し今日を迎えられたことへの感謝が述べられ、昭和三十三年より続く沖

縄県本土復帰運動を始め復帰記念として建立された波照間の碑などこれまでの事業を振り返ると共に現在も続く北方領土、竹島の領土問題に対する取り組みも継続していかねばならないと決意を述べられました。

本事業を通じて今も抱える領土問題に対する更なる啓発を計ると共にこの不安定になりつつある世界情勢の中で我々はいかに国を守り平和を紡いでいくか模索し、青年神職として出来る事を行動に移していかなければならないと感じた次第です。

尻岸内八幡神社 禰宜 荒木直弥

北海道神道青年協議会スポーツ大会

去る令和四年十一月八日に北海道神道青年協議会スポーツ大会が全道各地より三十五名の会員が参加し、札幌のノルベサにて開催さ



れました。

昨今のコロナ禍の情勢により前回の旭川でのスポーツ大会以来二年ぶりに開かれ、本年も前回同様の種目、ボウリングが競技に採用されました。

開会式で北方宏和会長の御挨拶の後、北方



会長・芦原大記参与の始球式があり、プレー開始となりました。

久しぶりの会員同士のスポーツ交流ともあり、皆楽しそうにプレーしながら声を掛け合い賑やかな大会となりました。

スポーツ大会終了後は会場を札幌エクセルホテル東急に移し、懇親会が執り行われました。懇親会では改めて北方会長より御挨拶を頂いた後、奥野勝也先輩より乾杯の御挨拶と御発声にて懇親会開会となりました。久方ぶりの開催の懇親会という事で宴中、二年間分の道神青協新入会員の紹介があり、三橋充佳会員・松谷亮会員・田湯桃花会員・小野貴大会員・吉住省吾会員がそれぞれ同支部の先輩会員より紹介されました。新入会員紹介の後にスポーツ大会の結果発表が行われ、二ゲーム合計の点数で順位がつけられました。三位は同点の二九〇点で始球式をつとめた芦原参与・北方会長が、二位は文月会の横井会員が三〇六点で授賞されました。そして優勝は新入会員の三橋充佳会員が三〇七点を記録し、栄冠に輝きました。又、全員の順位も発表され順位帯ごとに賞品が用意され、獲得を該当の人数がくじ引きで争い、最後まで大変白熱した結果発表となりました。

最後に芦原参与より締めめの御発声があり、懇親会の閉会となりました。

未だに新型コロナウイルス関係の報道が毎



日道内をはじめ全国を騒がせており、この数年間はそれぞれのお宮は勿論、道神青協の活動も縮小や延期等を余儀なくされておりますが、今回二年ぶりに開催することができ、会員相互の交流を久しぶりに深めることが出来た大変貴重で有り難い時間でした。北方会長の任期も残りわずかとなり、次期の荒木会長期が目前となっております。まだまだ先の見通せない状況ではありますが、今後も会員同士の横の繋がり、縦の繋がりを今一度強固にし、会員皆が出やすく活発な青年会活動が出来るように一会員として尽力したく存じます。

旭川神社 権禰宜 西端啓佑

- ① 生年月日 年齢
- ② 奉務神社 神社役職
- ③ 青年会単位会名
- ④ 最近ハマっている事
- ⑤ 今一番欲しいもの

◆新役員紹介



理事(檜山)
伊藤 大輝

- ① 平成5年10月21日生 27歳
- ② 今金八幡神社 宮司
- ③ 檜山神道青年会
- ④ 釣り
- ⑤ 船

◇新入会員紹介



吉住 省吾

- ① 昭和63年9月24日 33歳
- ② 泊稻荷神社 禰宜
- ③ 後志青年神職会
- ④ 食べ歩き・温泉
- ⑤ メダカ鉢



伊部 瑞葵

- ① 平成11年6月4日生 23歳
- ② 湯倉神社 権禰宜
- ③ 渡島神道青年会
- ④ 温泉
- ⑤ カメラ



佐々木 隆之

- ① 昭和59年9月21日生 38歳
- ② 東川神社 権禰宜
- ③ 上川神道青年会
- ④ 読書
- ⑤ パソコン



大小島 尊之

- ① 平成6年3月15日生 29歳
- ② 稻荷神社 権禰宜
- ③ 後志青年神職会
- ④ ゴルフ・ドライブ・草野球
- ⑤ 趣味に関わる物

北海道内単体会紹介

- 札幌支部青年神職文月会 四十九人 会長 横井 康大
- 渡島神道青年会 十五人 会長 濱村 貴公
- 檜山神道青年会 四人 会長 伊藤 大輝
- 後志青年神職会 九人 会長 玉置 彰彦
- 安知支部青年神職会 八人 会長 山根 大司

- 上川神道青年会 十四人 会長 池田 宏幸
- 留萌青年神職会 二人 会長 瀧川 慎吾
- 宗谷青年神職会 三人 会長 山本 紘輝
- 網走神道青年会 三人 会長 瀧川 寛毅
- 紋別神道青年会 三人 会長 中島 徹

- 胆振青年神職会 十一人 会長 月館 良治
- 日高青年神職会 六人 会長 酒井 俊
- 十勝支部青年神職会 八人 会長 加藤 祐亮
- 釧路管内神社青年会 六人 会長 関 祥一
- 根室神道青年会 三人 会長 相澤裕佳子

編集後記

先ずは通信八十三号発行にあたり、社務ご多忙の中ご寄稿また、アンケートに御協力下さいました会員の皆様に御礼を申し上げます。

令和二年から続くコロナ禍ですが、今年も多くのお宮で例年通りとはまいませんが例祭や神輿渡御が行われ地域に活気が戻ってきたのではないかと思います。今後も感染対策に努めつつ、円滑な事業運営ができるよう取り組んでまいりますので、先輩諸兄・御関係の皆様のお力添えを賜ります様お願い申し上げます。

(鳥居俊宏)

北海道神道青年会事務局
北海道神宮社務所内
電話 〇一一六二二一〇二六
ファックス 〇一一六一一〇二六
メール nishiyama3219@cloud.com



【事業品問い合わせ先】
道神青協事業品事務局 TEL: 011-382-2201